

編集後記

『子どものからだ研究』第1号をお届けいたします。記念すべき第1号には、学内外から寄せられた計9編が掲載されています。

投稿論文は5編が掲載されています。1) 野井論文では、子どものからだのおかしさについて、1991年に正木健雄本学名誉教授が警鐘した「人間の危機」が、近年においても解決されておらず、むしろ「ヒトの危機」となっていることについて論じられています。2) 河田論文では、幼児の新型コロナウイルス感染拡大の長期化による運動遊びを含む生活状況と心身への影響について論じられています。3) 笠井論文では中学生の新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校中と休校明けの生活行動と不定愁訴の実態調査の結果、ならびに24時間行動ガイドライン達成状況と不定愁訴有訴状況との関連について論じられています。4) 吉永論文では、小中学校を対象とした薬物乱用問題や薬物乱用防止教室の実施状況改善のために、児童・生徒の知識・スキル向上や薬物乱用防止教室の実施率向上に繋がる効果的なプログラム実施形態について論じられています。5) 大石論文では、へき地学校として指定された沖縄県内の中学生における運動有能感と新体力テストの結果との関係について論じられています。

投稿原稿は2編が掲載されています。1) 尾川書評では、『子どもの文化人類学』（原ひろ子著、2023年）の内容紹介とともに文化人類学的にみた学び論・新たな教育のあり方について論じられています。2) 城所報告では、2024年のパリ五輪関連イベントとしてフランス政府が主催した「Residency of Young Scientific Talent」へのプログラム参加報告がされています。

研究所報告は2編が掲載されています。1) 「実態」「実践」「支援」の3プロジェクトによる研究成果、2) 設立記念シンポジウムの講演概要が報告されています。

冒頭の野井所長挨拶の通り、2023年は、「こども家庭庁」設置、「こども基本法」施行など、「子どもの権利（Child Rights）元年」とも言える年に「子どものからだ研究所」が設立されました。私事ではありますが、こうした記念すべき年に初の子どもが生まれ、公私ともに子どものからだ研究に勤しんでいるところです。研究が、少しでも子どものからだに還元されるよう、尽力してまいります。

最後になりましたが、本号に寄稿いただきました皆様、そして本号発刊に向けてご協力をいただきました研究所員の先生方、総合スポーツ研究所職員の皆様、白峰社の皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

2024年6月11日（国際遊びの日） 子どものからだ研究所 助教 寺田 光成

子どものからだ研究 No.1

Journal of Children's Physical Health

子どものからだ研究 編集委員会
野井真吾, 白旗和也, 岡本美和子, 城所哲宏, 寺田光成

発行日 2024年6月11日

発行者 日本体育大学 子どものからだ研究所
〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1

連絡先 kodomo@nittai.ac.jp
H P <https://www.nittai.ac.jp/nssuri/cph/>

印刷 株式会社 白峰社
〒171-0013 東京都豊島区東池袋 5-49-6
TEL 03-3983-2312

Print Edition ISSN 2759-4513

Online Edition ISSN 2759-4521